

■インターネットと人権について

インターネットがますます身近なものになるにつれ、だれもが自由に情報や意見を発信できるようになり、世界中の不特定多数の人たちとつながることができるようになりました。しかし、一方では、インターネットの持つ匿名性を悪用した、差別書き込みや誹謗中傷、プライバシーの侵害などが繰り返されるといふ新たな人権問題が生じるようになりました。

■インターネットステーションの設置

2001年、大阪府池田市の小学生殺傷事件や明石花火大会歩道橋事故の際には、被害者を誹謗中傷する書き込みがインターネットの掲示板にあふれました。その他にも、部落差別や外国人差別にかかわる書き込みが繰り返され、放置できない状態でした。そこで、市町村人権・同和問題啓発活動推進本部連絡協議会(「啓発連協」)が呼びかけ、同じ問題意識を持つ人々が集まり、2002年2月に「インターネット掲示板差別書き込みについて考えるプロジェクト会議」を立ち上げました。その後、2003年4月には活動拠点となる「インターネットステーション」を奈良県市町村会館内に設置し、全国に先がけて差別書き込みのモニタリングを開始しました。



インターネットステーションの様子

インターネット掲示板差別書き込みについて考えるプロジェクト会議
(インターネットステーション)

■インターネットステーションにおける主な活動

インターネットステーションにおける差別書き込みのモニタリングは、市町村、奈良県、奈良県教育委員会、関係団体等がチームを組み、月・金曜日を中心に行っています。その対象範囲は、YouTube、Yahoo!、Twitterにも広がっています。

発見した差別書き込みで、奈良県に関するものは、市町村、奈良県等と連携して削除要請を実施しています。奈良地方法務局へ文書で申し入れるとともに、YouTube、Yahoo!、Twitter等へは、サイト上から削除要請を行っています。また、近年は、他府県とも連携して取り組みを進めています。

■啓発活動について

2004年からは、より多くの方にインターネットと人権への関心を高めていただくことを願って、毎年「シンポジウム」を県内各地で開催して啓発活動を行っています。今年も「これでいいのか! インターネット社会と人権」をテーマに8月、大和郡山市で開催しました。



インターネット掲示板差別書き込みについて考えるプロジェクト会議
(インターネットステーション)

◇住所 奈良県橿原市大久保町302-1
奈良県市町村会館内